

いくのだいかんしょあと いくのじょうあと
5. 生野代官所跡(生野城跡)

■ 指定日

昭和54年12月4日

■ 種別

史跡

■ 年代

室町時代後期～江戸時代

■ 所在地

朝来市生野町口銀谷

■ 所有者

朝来市ほか



■ 内容

『銀山旧記』には、「山名右衛門督祐豊(1511～1580)の居城となり、総構かき上げ堀り、内堀一通りあり、三階の天守を上げ、角々に矢倉をつけ・・・」と記述がある。平成15年から平成17年(2003～2005)の発掘調査では、天正期(1573～1592)に内堀として利用されていた石垣や、竹田城よりも古い時代の瓦などが確認された。少なくとも秀吉の時代には、城郭施設が構築されていたものと考えられる。

織田信長の時代から奉行を派遣し、この生野城(平城)を利用して生野銀山を支配した。後に代官所として、江戸時代における銀山支配の中核的な役割を果たした。

明治2年から4年(1869～1871)まで生野県が設置された際には、ここを県庁としたが、その後、建物は取り壊され、内堀も明治後半には埋められた。